

分考通信

第二号
2017年6月号
文責
中伸一



地域に分校をたずねる

分校通信の第一号を読んだインタビュアーが実感を「1分間スピーチ」として発表しました。その一部分を抜粋し第二号を作りました。「1分間スピーチ」を聞いて感じたことは、生徒一人一人が分校について自分の考えを発表できたことです。

生徒一人一人に 今後の分校の実感が湧いてきた!

今と昔の違い何…?

先日分校についてのアンケートを取りました。

50歳ぐらいの方達は、「生徒が多くて楽しかった」「文化祭は賑やかだった」「青春のすべて」など明るい答えが返ってきました。しかし今の分校の意見を聞いてみると、「人数が少ない」「寂しい」「活気がない」など暗い答えが返ってきました。今と昔と時代は違うが、同じ高校なのになぜこうも意見が変わるのかと思えました。(3年 Y・M)

もっとアンケートを取って聞いてみたい

もっと若い人にもアンケートを取って結果を聞いてみたい。

若い人が思っている分校の印象や、期待することは何があるのかアンケートを取ってみたいと思いました。(3年 K・H)

団結力は負けない

私たちが地域の方々に分校についてアンケートをとって分かったことは、昔の分校は人が多く、団結力があり楽しかったという意見が多かったことです。

確かに今の分校は人数が少なく寂しいです。だけど、その分一人一人の距離が近くて文化祭などの行事には生徒一丸となって取り組み、団結力なら負けていないと思います。(3年 T・M)

清水の良いところ

アピールしたい

清水には、あらぎ島や山椒などのここにしかない良いところや特産品があります。そのことをもっとほかの地域の人たちに知ってもらえれば、興味を持って観光などに来てもらえると思います。すぐに人数を増やそうとするのではなく、少しずつ今ある清水の良いところをもっとアピールしていきたいなと思いました。(3年 K・I)

小規模の特色を生かして

地域の方々は分校にいい思い出や印象をたくさん持っているのだと思います。分校は地域とすぐ身近にあるということを実感しました。

少子高齢化が特に進んでいるこの清水で、分校の生徒数が年々少なくなっているのは仕方ないことです。分校には、人数が少ないからこそその特色がたくさんあります。分校のいいところをもっとアピールし、分校を通じて清水を活気づけられたらいいなと思います。(3年 S・H)

分校への期待に応える

これらのアンケート結果で、特に印象に残ったことは「人数が少ない」という回答です。人数が少ないと廃校になるかもしれないし、「清水分校が長く続いてほしい」という期待にも応えられないくなります。まずは、清水分校をたくさんの人に知ってもらおう努力をしないとけないと思います。

私たちに「便利な道」「働く職場」は難しいです。私たちが考えたアピールをポスターやホームページに示したいと思います。(3年 M・A)

清水の役に立ちたい

生徒が少なくなると、地域の人は今の分校のことが分からなくなつたのだと思います。今、私は学校が楽しいと思っているので、もっと清水分校のことを知ってほしいと思います。

清水の人と出会ったら挨拶をして、地域の人と関わっていくことが必要だと思います。文化祭も生徒と保護者だけではなくて、地域の人にも来てもらって楽しいということを知ってもらいたいです。

清水は2人に1人が高齢者と言われていて、若い人は清水を出て行くことが多いので、清水の役に立てることをしたいです。(3年 Y・O)

卒業生スピーチ



六月二日(金)に、卒業生の林弘人さんにお話を聞きました。

した。昨年は公私に渡って、先輩達にはお世話になりました。今、新人の人達が入社してきて、先輩達に教えてもらったことを伝えていますが、すごく責任感を感じます。仕事の内容は宅配です。一日五十件ぐらいを配達しますが、終わって自宅に帰ったらそのまま寝てしまいます。休みは、食事に行ったり、映画を観に行ったりとても楽しいです。

人との係わりが多く、仕事仲間には他県の人も多く、自分なりに視野が広がったような気がします。一度、都会に出るのもいいと思いますとお話を聞かせて頂きました。(中)

